

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	24654
事業名	さっぽろアートステージ事業費					
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課				
	課長名	浜部 公孝	担当者名	星 奏衣	電話番号	211-2261
施策名	主	将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ● 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	①文化芸術活動を行う特に若年層の市民に対して発表の場を提供するとともに、市民が身近に文化芸術に触れる機会を提供することで、文化芸術への関心を高める。②音楽文化都市交流宣言を行った浜松市との相互交流を通して、両市市民の音楽文化に関する相互理解の促進を図る。			
		長期	札幌市における文化芸術活動の担い手を育成し、文化芸術振興を図る。			
	取組内容	①アートステージ開催事業(札幌劇場祭開催費補助金含む) 11月を文化月間と位置づけ、美術、演劇、音楽などのイベントを1か月間集中的に開催する。 ②浜松市との音楽文化都市交流 浜松市と交流団の受入や同市への派遣等を行い、両市の交流を深める。				
実施結果	・さっぽろアートステージ2021:美術、音楽、舞台の様々なイベントを市内各所で実施した。美術部門では特別企画として2コンテンツを導入した。(①子供向けのデジタルアート制作ワークショップ、②障害児/者の作品を展示する「ボーダレスアート」) ・浜松市との音楽文化交流事業:新型コロナウイルスの影響で往来を伴う交流は中止したものの、浜松市中学校合唱団と本市の交流受入中学校合唱団が動画による音楽交流を実施し、アートステージのホームページにも掲載した。					
事業実施における工夫点	新型コロナウイルスの感染対策を講じ、できる限り実地で開催した。ものによってはオンライン転換やハイブリッド開催を行うなど、イベント内容に合わせて柔軟に対応した。					
対象者	市民、観光客など	開始	平成17年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例 第3次札幌市生涯学習推進構想					
他都市の状況	市民参加型の文化フェスティバルから、国際的な芸術展まで、多くの都市で大規模な文化フェスティバルが開催されている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	27,543	29,000	27,844	29,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.2	0.2	0.2	0.2	
人件費	1,440	1,440	1,440	1,440	
計(事業費+人件費)	28,983	30,440	29,284	30,440	
事業費の内訳	令和3年度決算	さっぽろアートステージ運営委託費:23,791千円 浜松交流事業費:0千円(浜松市が創造都市ネットワークに加盟しているため、創造都市ネットワーク活用事業費に予算622千円流用し、他イベントとあわせて委託した) 札幌劇場祭補助金:2,888千円 さっぽろスクール音楽祭会場使用料:1,165千円			
	令和4年度予算	さっぽろアートステージ運営委託費:26,112千円 (さっぽろスクール音楽祭会場使用料及び浜松交流事業費を含む) 札幌劇場祭補助金:2,888千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	プログラム数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	9	9	8	9	
	指標名				
活動指標2	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	指標名	子どもの発表者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標1	1,000人	2,000人	1,898人	2,000人	
	指標名	来場者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	300,000人	500,000人	575,397人	580,000人	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	<p>①新型コロナウイルスの影響により、一部をオンライン化する等柔軟な措置を講じつつ、美術、音楽、舞台など様々な分野で事業を実施し、発表の機会が少ない主に若年層の市民に発表の場を提供するとともに、多くの市民が気軽に文化芸術に触れる機会を提供した。</p> <p>②実地での交流は叶わなかったが、浜松市の合唱団と札幌市の受け入れ中学校合唱部がオンラインで音楽交流を行い、その動画をホームページに公開することで両市の音楽文化に対する相互理解を深められた。</p>			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	<p>①子どもの発表者数1,898人、総来場者数575,397人と、コロナ前の水準に近い数字に戻すことができた。(参考:令和1年の子どもの発表者数は1,941人。総来場者数は、係数方法が当時と異なるため比較不可)</p> <p>②浜松市の合唱団の来札・交流はできなかったが、音楽交流を行っている動画をYoutubeチャンネルに投稿することで、広い層の人々に音楽交流を知ってもらうことができた。</p>			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	<p>①各部門の専門家を委員としたアートステージ実行委員会が実施主体となることで、多彩な文化芸術事業を専門的な見地から効率的・効果的に展開できている。</p> <p>②さっぽろアートステージへの参加など既存事業を活用し、学校関係者などの協力を得ながら限られた予算の中で効率的に行っている。</p>			
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	<p>①子ども向けのワークショップ参加者へのアンケートでは、93.7%が満足したと回答している。また、制限が加わりながらも、昨年度は実地で開催できなかった小中高生の演奏会や地下歩行空間での音楽ライブを行うことができ、発表・鑑賞の機会を創出することができた。観覧者数より、対象者のニーズに沿った事業ができたと言える。</p> <p>②さっぽろアートステージへの参加など既存事業を活用し、学生の積極的な参加を得ており、対象者のニーズにしている。</p>			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	新型コロナウイルスの状況にあわせてオンライン化等の対策を柔軟に行いながら、発表者・観覧者のニーズに最大限に応えられるような展開としていきたい。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	<p>①感染状況の好転に伴い可能な限り実地開催とし、キックオフイベントを再開させた。</p> <p>②浜松市より合唱団を迎え、実地交流を行う予定。</p>		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	多彩な文化芸術イベントを実施し、子どもを含む多くの市民に、文化芸術に触れる機会や発表の機会を提供しているため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 可能な限り実地開催を行う他、引き続きできる限り多くの人に届く事業の展開を目指していく。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 引き続き同程度の予算で事業を実施していく。 ※令和5年度は10%シーリングを含む		見直し効果額	0